

ナリス 2種類のベリーエキスに 「美白ムラ」を抑える効果を発見

ナリス化粧品はこのほど、メラニン色素が存在する表皮細胞に選択的に作用する「シミ」を呼ぶ「メラニン」を断ち切ることで、新に「ホワイトストロベリーエキス」と「ヒマヤンラズベリーエキス」の2種類のベリー由来エキスを見出した。すでに特許出願を終え、4月に発売する薬用スキンケアに応用する。

メラニン色素が存在する表皮細胞に選択的に作用する「シミ」を呼ぶ「メラニン」を断ち切ることで、新に「ホワイトストロベリーエキス」と「ヒマヤンラズベリーエキス」の2種類のベリー由来エキスを見出した。すでに特許出願を終え、4月に発売する薬用スキンケアに応用する。

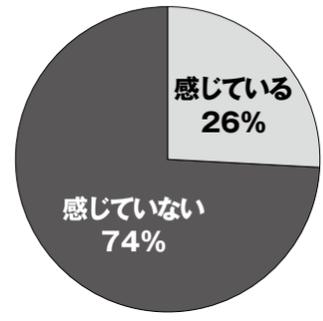
メラニン色素が存在する表皮細胞に選択的に作用する「シミ」を呼ぶ「メラニン」を断ち切ることで、新に「ホワイトストロベリーエキス」と「ヒマヤンラズベリーエキス」の2種類のベリー由来エキスを見出した。すでに特許出願を終え、4月に発売する薬用スキンケアに応用する。

ドクターフィル コスメティクスは、1月16日～28日にかけて「エイジングケア」に月1万円以上かけている38歳から49歳の「アラフォー女性」103名を対象に、「アラフォー女性のエイジングケアに関する意識・実態調査を行った。同社では「過去の若々しかった肌のイメージ」と「年齢を重ねた現在の肌との落差(ギャップ)」を調査した。

ドクターフィル コスメティクス アラフォー女性の エイジングケア意識を調査

「肌ギャップ」を「肌ギャップ」と定義し、肌ギャップを感じたことがあるかをたずねたところ、95%の人が「経験あり」と回答した。さらに、肌ギャップを経験した女性のうち「他人から肌ギャップを指摘された経験がある」人は51%と半数以上を占めていた。また、同年代女性が集まる機会である「同窓会」に参加した時に、他の女性に対して「肌ギャップ」を感じたかたずねたところ、

自分の「エイジングケア」が十分だと感じていますか?



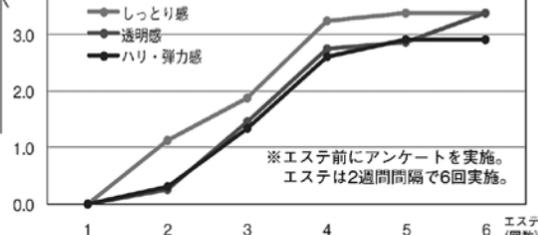
「肌ギャップ」に対してどのような「エイジングケア」を行っているのかを調べると、1位「肌全体のハリ」(84%)、2位「ほうれい線」(83%)、3位「目の尻の小さなわ」(76%)の順となっていた。女性たちにとって顔全体の印象を左右する「肌のハリ」対策はもちろんだが、「目のハリ」に対するピンポイントケアも「肌ギャップ課題」の最重要事項に挙がってきた。一方、実際に現在利用している(利用経験のある)「エイジングケア」アイテムを挙げると、1位に「美容液」(99%)、2位に「クリーム」(87%)、3位に「化粧水」(83%)など「肌全体のケア」に対するアイテムが上位に挙がった。ここからは、肌ギャップの課題である「ピンポイントケア」アイテムまで手が回っていない現状がうかがえた。

自身のエイジングケア対策を 7割強が「不十分」と回答

「肌ギャップ」に対してどのような「エイジングケア」を行っているのかを調べると、1位「肌全体のハリ」(84%)、2位「ほうれい線」(83%)、3位「目の尻の小さなわ」(76%)の順となっていた。女性たちにとって顔全体の印象を左右する「肌のハリ」対策はもちろんだが、「目のハリ」に対するピンポイントケアも「肌ギャップ課題」の最重要事項に挙がってきた。一方、実際に現在利用している(利用経験のある)「エイジングケア」アイテムを挙げると、1位に「美容液」(99%)、2位に「クリーム」(87%)、3位に「化粧水」(83%)など「肌全体のケア」に対するアイテムが上位に挙がった。ここからは、肌ギャップの課題である「ピンポイントケア」アイテムまで手が回っていない現状がうかがえた。

さらに、アラフォー女性たちに現状行っている「エイジングケア」に対する満足度をたずねると、「自分の『エイジングケア』が十分だと感じている」女性はわずか26%であり、4人に3人は「不十分」と感じながら、「エイジングケア」を続けていることがわかった。「ピンポイントケア」に関しては「決定的な効果が得られていないこと」「効果がありそうな商品が高価格であること」など悩みも共通していた。

エステ継続による肌変化 (6段階評価アンケート)

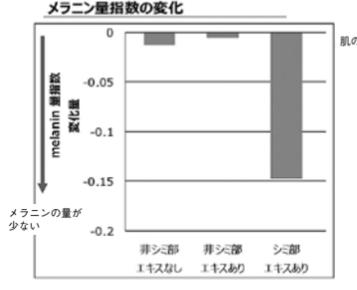


エステ継続による肌変化のアンケート調査では、しっとり感、透明感、ハリ・弾力感が向上し、回を重ねる毎に評価が高まる傾向が見られた。

エステ継続による 肌・気持ちの変化を検証

これらの結果から、エステを継続することは美肌維持に有効であるとともに、気持ちの変化にも有効であることがわかった。

「ヒマヤンラズベリーエキス」には、「IL-1α」の過剰分泌を抑える効果が認められた。ホワイストロベリーエキスをシミ部・非シミ部に塗布してメラニン量を測定した試験では、非シミ部の肌のメラニン量が塗布後もほとんど変わらなかったのに対し、シミ部ではメラニン量を減少させる作用が確認された。



ポーラは、2015年8月20日～10月29日にかけて、被験者8名(30代4名、40代4名)を対象に、2週間間隔で6回の肌測定とエステを実施し、エステ継続による肌・気持ちの変化を検証した結果、エステを定期的に継続して受けることで、肌の弾力性や明るさが増す傾向があることが確認された。

ポーラ エステ後の肌変化を5段階評価でアンケート調査したところ、しっかりと

肌測定とエステを実施し、エステ継続による肌・気持ちの変化を検証した結果、エステを定期的に継続して受けることで、肌の弾力性や明るさが増す傾向があることが確認された。

ポーラは、2015年8月20日～10月29日にかけて、被験者8名(30代4名、40代4名)を対象に、2週間間隔で6回の肌測定とエステを実施し、エステ継続による肌・気持ちの変化を検証した結果、エステを定期的に継続して受けることで、肌の弾力性や明るさが増す傾向があることが確認された。